

開催地名	沖縄県浦添市
開催日時	令和6年2月13日（火）14：00 ～ 15：30
開催場所	浦添市中央公民館
語り部	吉川 裕彰 （和歌山県海南市）
参加者	自治会、関係機関、市職員 58 名
開催経緯	当市では、市民が自主防災活動を効果的に行うため、地域ごとに自主防災組織を設立することを推進している。 当市はこれまでに大規模災害を経験をしていなかったこともあり、8つの自主防災組織のみの設立にとどまっており、市として自主防災組織設立の更なる推進及び既存組織の育成強化が課題となっている。
内容	(1)団体の基本理念、活動方針及びこれまでの歩みについて 私たちの団体は大きく次の2点の基本理念を掲げ活動をしている。その第1点目としては、住民と企業が一体となって臨海地域の防災対策に取り組むことであり、その2点目は、共助の観点で組織の運営や活動を行い、地域の安全・安心を守ることである。 また、これらの基本理念の下、私たちは、大きく3つの活動方針を立てている。 第1は、津波避難場所（藤白神社周辺）に資器材等を備蓄し、管理を行うこと。 第2は、災害時には、津波避難所において情報の収集、伝達、救急対策を行うこと。 そして第3は、災害時には、津波避難場所において避難者の統括を行う。 としており、特に第2と第3については、津波避難場所から海南市指定の避難所に移動するまでの発災後24時間を対象としている。 私たちの団体は平成23年3月の東日本大震災の発生を契機として設立に向けた行動を開始し、翌年6月に自治会と和歌山石油精製株式会社（現ENEOS）との意見交換及び避難所となる藤白神社との協議を経て平成24年12月に団体を設立した。また翌年平成25年6月に防災資機材の保管を開始して、以降現在に至っている。 (2)これまでの取組、これからに向けた取組、10年後に向けた取り組みについて これまでの取組としてまず第1に津波避難場所に防災倉庫内の資器材・備蓄物資を整備し、定期点検と定期的な入れ替えを継続的に実施するとともに集合場所の目印や誘導用案内看板を確実に準備している。特に藤白神社の社務所や隣接する農業倉庫及び民家飲食施設へ避難スペースの提供を依頼する等、発災時における高齢者や災害時要支援者の受け入れについても対策をとっている。 第2に地域内の取組として特に避難時に活用できる救命胴衣や避難確認可能な黄色い目印の整備、高齢者等用のリヤカー、トランシーバ等を整備している。 また第3にソフト対策として危険個所の確認、避難マップを各世帯に配布し、地元小学校と合同で夜間の避難訓練を実施する等、いかなる状況にも柔軟に対処できる訓練を行っている。

	令和2年には、これからに向けた取り組みとして、これまでの検証、今後に向けた協議を4度にわたり行い、地区防災計画を策定し、海南市防災会議で承認され、和歌山県自治体では初めて海南市防災計画に位置づけられた。 10年後に向けた取り組みとしては、いつ災害が起こっても困らないように、リーダーだけでなくリーダー不在時の代行者を明確にする実践的な取り組みや、次の時代を担う若い世代を積極的に登用する等の長期的視野に立った取り組みを行っている。 (3) 繋がる地域活動と継続的な訓練の積み重ねについて 努力の成果が認められ、多数の賞を受賞することができたが、このことを励みとして自信と喜びを持てるようになっており、これらの成果を活用して繋がる地域活動を継続しつつ、継続的に防災訓練を積み重ねていきたい。
開催地より	自主防災組織のリーダーとしての地道な取り組み等について、具体的な内容をわかりやすく伺うことができた。 当市では本日の講演を踏まえ、自主防災組織の設立促進を継続する傍ら、自助・共助の重要性をさらに啓発しつつ、防災訓練の重要性についてあらゆる機会をとらえた啓発活動を強化していきたい。